

平成 12 年 10 月 17 日
林 野 庁 計 画 課

モデル森林の推進に関する国際ワークショップ第 4 回会合 - 山梨ワークショップの開催について -

本ワークショップは、持続可能な森林経営(SFM)の実践の場としてのモデル森林の取組みを国際的に推進するために、平成 9 年度より平成 12 年度まで毎年度開催しているもので、()モデル森林の役割、()モデル森林の推進に必要な現実的な方策、()ネットワーク等を含む国際協力の促進及び()国レベルの総合的な土地利用政策への反映のあり方について、検討することを目的としている。

1 .山梨ワークショップ - 第 4 回会合 -

(1)議題:

本会合では、

上記の() ~ モデル森林等のフィールドでの活動の結果を国や地域の政策へ反映させる方策 ~ について検討することとし、フィールドトリップとして山梨県が独自で取り組んでいる森林生態系モニタリング調査事業地等を視察し、モニタリング手法とその結果の県林政への反映を課題として検討を行う。

本ワークショップ・シリーズの最終会合として、第 1 回 ~ 第 4 回までの検討結果の要点をシリーズの総括報告として取りまとめる。

(2)参加者:

国内関係者では、森林総研、JICA、北海道、高知、山梨県等。

海外関係者では、17 カ国(アジア等)、国連食糧農業機関(FAO)、国際熱帯木材機関(ITTO)、国際モデル森林ネットワーク事務局(IMFNS)、国際林業研究センター(CIFOR)等。

(3)日程・場所:

10 月 23 日(月)から 27 日(金)まで。

山梨県甲府市(ベルクラシック甲府)、須玉町。

(4) これまでの成果：

第1回会合（東京）では、モデル森林の備えるべき要件、モデル森林の果たす役割について確認された。

第2回会合（三重）では、宮川流域をケース・スタディとして取り上げ、幅広い関係者を取り込んだ枠組みが、途上国の SFM を推進していく上で効果的であることが確認された。

第3回会合（群馬）では、川場村、片品村でケース・スタディを行いながら、利害関係者の特定、パートナーシップの役割、ネットワークの役割の3つのテーマについて検討を行った。

【参考】

1. モデル森林の考え方：

モデル森林とは、基準・指標に基づき客観的に森林資源及び森林経営の状況を把握しつつ、利害関係者の参加・参画（パートナーシップ）を図りながら、総合的な土地利用計画の枠組みの下で森林計画（流域または生態系的まとまり）を策定し、実施していくことを通じて、SFM の実践を試みる「場」であり、モデル森林内や他のモデル森林との新しい情報・知見や伝統的な知識の交換と共有（ネットワーク）を通じて、よりよい SFM を推進していく枠組みを提供するものである。

2. 我が国による国際ワークショップの開催主旨：

国内に蓄積された技術、制度、政策等を活用しつつ、モデル森林の取組を通じて、途上国における SFM 達成の支援を行う目的で、平成9年度より12年度まで、国際ワークショップを開催してきたところである。

問い合わせ先：

林野庁計画課海外林業協力室

海外企画班 柱本、谷本（内線 6212,6213）

直通 3591-8449